

第1学年 組英語科学習指導案

福岡市立 中学校
指導者

1. 単元 Program6 シアトルでの1日

2. 指導観

○ 21世紀に入り、ますますグローバル化が進み、日本の中学生が地球市民の一人として、世界で多く使われている英語の習得と国際的な視野を身につけることが必要となってきている。また、ますます急速に進展する通信技術や交通手段の発展により、日本以外の国や文化との接触が増え、異文化と積極的に触れあう必要性が一段と強まってきている。

本題材は、由紀の海外旅行体験記である。シアトルの市内観光という場面を通じて、アメリカ文化の一端にふれ、アメリカ旅行の雰囲気を味わわせたい。本校の1年生の生徒は、イギリス、アメリカ、オーストラリアなどの英語圏の国に限らず、海外に興味をもつ生徒が多い。本題材で扱うシアトルについては、イチロー選手の所属するマリナーズについてよく知っており、親しみをもっている。

言語材料は、三人称単数形を主語にした現在形の表現を扱う。これまでは第三者については、be 動詞での表現しかできなかったが、一般動詞を使うことで、さらに表現の幅が広がり、コミュニケーション活動を積極的に図ろうとする態度を育てることも大いに役立つことが期待される。

○ 本学級の生徒は、 名(男子 名、女子 名)である。明るく朗らかなクラスで、活発に学習活動に取り組んでいる。英語学習に対する意識調査では、英語が「(大変)好きだ」という生徒が8割近くを占め、楽しく学習する雰囲気がある。また、ほとんどの生徒が小学校での外国語活動を経験している。「英語で話すことが好きである」(65%)「友だちと英語でかかわることに自信がある」(61%)「自分の身の回りのことを英語で話すことができる」(71%)と考えている。意識調査の中で、「日常生活の中で英語が話せるようになりたい」「海外旅行で困らないように英語が話せるようになりたい」「将来英語を使った仕事ができるようになりたい」「外国の人と話したい」と多くの生

徒が答えている。一方で、「自ら進んで、英語で話そうと思わない」生徒が半数(48%)で、意欲的に話そうという態度は身につけていない。そのため、少人数でのコミュニケーション活動を通して、生徒の抵抗感を取り除き、コミュニケーションができる喜びを味わう機会を、話すことに自信のない生徒に、数多く与えるように配慮している。

入学当初から、パソコン・電子黒板・プロジェクターを使った授業に取り組んでいる。「どんなものを使った活動がしたいですか」という質問に対し、パソコンと答えた生徒が 84%を占めた。生徒の学習意欲を高める大きな要因の一つとなっていると考えられる。

○ 指導にあたっては、生徒が英語を話したり、聞いたりする場面を多く設定し、楽しい雰囲気の中で学習を進めたい。グループワークやペアワークを通して、話すことに自信のない生徒にも発話の機会を与え、コミュニケーションができたという達成感を味わわせたい。

毎時間の warm-up でリズムに乗った音読活動に取り組み、新出文型の導入では電子黒板を使った口頭練習を行う。そして電子黒板を使った show & tell の自己表現活動に発展させていく。新出単語や教科書本文の内容理解では、絵を用いて導入し、理解を助け、音読練習や書く活動を通して定着を図りたい。

また、毎時間、自己評価表で学習活動の振り返りを行わせ、生徒一人ひとりに学習課題を発見させ、足りない部分を家庭学習で補うよう指導している。このような活動を通して、意欲的・主体的に学ぶ態度を育成したい。

3. 目標

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	一般動詞の三人称単数現在を用いて、有名人や友人のことを積極的に紹介しようとする。
表現の能力	一般動詞の三人称単数現在を用いて、適切に表現することができる。
理解の能力	一般動詞の三人称単数現在を含む文章の要点を正しく理解することができる。
言語や文化についての知識・理解	When～? や一般動詞の三人称単数現在の文構造を理解し、質問したり答えたりすることができる。

4 指導計画および評価計画(7時間)

配時	学習活動・内容	指導上の留意点	評価規準 ＜評価の方法＞	評価基準(関心・意欲, 表現, 理解, 言語や文化)		Cと判断される生徒に対する手だて
				A(十分満足できる)	B(概ね満足できる)	
1	<p>身近な人たちを紹介しよう。</p> <p>§1の基本本文を理解し, 新しい文型を用いて, 友人や有名人についての英作文をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・三人称単数現在の形に注意して書かせる。 ・評価シートを用いて, スピーチをするときの注意事項を示す。 	<p>表: 三人称単数現在を用いて, 第三者についての英文を書くことができる。＜記述内容分析＞</p> <p>理: 本文の内容を理解している。＜プリント分析＞</p>	<p>友人や有名人について, 正確な英文を書くことができる。</p> <p>本文の細かい部分まで読み取ることができる。</p>	<p>友人や有名人について, 80%正確な英文を書くことができる。</p> <p>本文のおおまかな内容を読み取ることができる。</p>	<p>英文のパターンを例示し, 簡単な動詞を提示しながら簡単な英作を完成させる。</p> <p>キーワードや絵を参考にして, ワークシートへ記入するように支援する。</p>
1	<p>§1の新出単語と本文の内容を理解して, 音読する。友人や有名人についての show & tell をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板のダブルクリックがスムーズにできるように練習させる。 	<p>関: グループ活動に積極的に取り組もうとしている。</p> <p>＜様相チェック＞</p>	<p>協力してグループ活動に取り組んでいる。</p>	<p>基本本文の表現をもとに, ワークシートの絵を使って, 口頭練習をさせる。</p>	
1	<p>§2の新出文型を理解し, 新しい文型を用いて, 表現活動をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・三人称単数現在の問答に友だちの似顔絵を用いて会話させる。 	<p>表言: Does ～? の用法を理解し, 第三者について問答することができる。＜プリント分析・発言チェック＞</p>	<p>Does ～? の使い方を正しく理解し, 3つ質問をし, 適切な応答ができる。</p> <p>Does ～? の使い方を理解し, 1つ質問をし, 適切な応答ができる。</p>		
1 本時	<p>友人や有名人についての show & tell を聞き, それについて問答することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・show & tell に対し, 積極的に問答させる。 	<p>関: いきいきと積極的に発表・質問しようとしている。</p> <p>＜様相チェック・自己評価＞</p> <p>表: 基本本文をもとに, いろいろな動詞を使って質問をすることができる。＜プリント分析・発言チェック＞</p>	<p>1つのスピーチに対し, 4つ質問することができる。</p>		<p>1つのスピーチについて, 2つ質問することができる。</p>
1	<p>§2の新出単語と本文の内容を理解して, 音読する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・内容聞き取りの際, 事前に聞き取りのポイントを示す。 	<p>理: 本文の内容を聞き取り, 要点をまとめることができる。＜プリント分析＞</p>	<p>聞き取りのポイントに加え, それ以外の内容も正しく聞き取ることができる。</p>	<p>内容の大切な部分を聞き取ることができる。</p>	<p>聞き取りのポイントを確認し, 数回繰り返して聞き取らせる。</p>
1	<p>§3の新出文型を理解し, 新しい文型を用いて, 表現活動をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・When ～?を用いた言語活動をスムーズに行うためにパワーポイントを使用する。 	<p>表言: When ～?の使い方を正しく理解し, さまざまな質問と, 適切な応答ができる。＜プリント分析・発言チェック＞</p>	<p>When ～?の使い方を正しく理解し, さまざまな質問と, 適切な応答ができる。</p>	<p>When ～?の使い方を理解し, 適切な応答ができる。</p>	<p>基本本文の表現をもとに, 英文をつくる助言をし, ワークシートの絵を使って, 口頭練習をさせる。</p>
1	<p>§3の新出単語と本文の内容を理解して, 音読する。アメリカの文化について理解を深める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・画像やDVDなどの視聴覚教材を用いて, 多文化への理解を深めさせる。 	<p>言: アメリカの文化について理解している。＜記述内容分析＞</p>	<p>アメリカの文化について詳しく説明することができる。</p>	<p>アメリカの文化について説明することができる。</p>	<p>画像やDVDなどの視聴覚教材を用いて, 日本の文化と比較させる。</p>

(1) 本時の主眼

- ペアやグループの対話の活動に積極的に取り組もうとする。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- Does she[he] ～? を使って質問し、Yes, she[he] does./ No, she[he] doesn't. を使って答えることができる。(表現の能力)

(2) 本時の指導観

前時までに生徒は、一般動詞の三人称単数現在の肯定文、疑問文とその応答について学んでいる。本時では、口頭での反復練習を通して三人称単数現在の問答に慣れさせることを目標とする。そのとき、絵を活用しながら楽しい雰囲気の中で、ペアワークやグループワークを行う。また、友人のスピーチを聞き、友人に質問することで、コミュニケーションを図ろうとする態度を育て、意欲を高めたい。warm-up では、二人称の疑問文とその答え方をリズムにのって復習する。次に、NSとの動物クイズで三人称単数現在の肯定文を使った表現活動に取り組む。そして“Who is he/she?”の show & tell をグループで発表し合いながら、相互評価を行う。そのとき、“Does ～?”“Is ～?”の問答を入れることを重視する。最後に、代表の生徒が電子黒板を用いて作品を show & tell し、全体で“Does ～?”“Is ～?”の問答を行う。電子黒板の使用は、新文型の口頭練習と次時の予告では教師が行う。三人称単数現在の肯定文を使った表現活動と生徒による show & tell の一斉指導の際には、生徒による操作で進めていく。

- (3) 準備 ①教科書 ②パソコン ③プロジェクター ④電子黒板 ⑤基本文カード ⑥ピクチャーカード ⑦ワークシート ⑧自己評価表 ⑨評価シート ⑩生徒の作品(画用紙)

(4) 過程 部分がNSの活動

学習活動・内容	資料 教具	指導上の留意点	形態	配時	評価規準 (評価の方法)	評価基準 (表現、理解、言語や文化)	Cと判断される 生徒への手だて
1 あいさつ		・本時のめあてを板書、ピクチャー、基本文を掲示しておく。 自己評価表、生徒の作品を配布しておく。		2			
2 “Brown Bear”を読む。	②③④	・リズムをつけて読ませる。	一斉	3			
3 動物クイズの問答をする。	②③④	・三単現肯定文の表現活動を班ごとに取り組ませる。 ○生徒の集中力を高めるために、電子黒板で、画像を瞬時に変換したり、大きく提示したりする。	一斉	10			
4 新文型の口頭練習をする。	②③④ ⑦	・前時に書いておいた友達の似顔絵を使って、三単現の疑問文と応答の口頭練習をさせる。 ○電子黒板で、前時の導入で使用した画像を提示する。	一斉 ペア	5	(関) 積極的に取り組もうとしている。 <様相チェック・自己評価>	(期待する姿) ・協力してペアワークに取り組んでいる。	
5 本時のめあてを確認する。 ほかの人についてたずねたり、 答えたりできるようにしよう。	①⑤⑥	・基本文の説明を、カードを使ってテンポよく行う。	一斉	3			
6 口頭練習をする。	⑦		一斉	2			
7 show & tell を聞いて、その内容について問答する。	⑦⑨⑩ ②③④	・評価シートを配布する。留意点(大きな声で、抑揚をつけ、目を見て発表・質問すること)を説明し、意識して発表・質問するよう促す。 ○生徒が電子黒板でダブルクリックをスムーズに行えるように、先に発表する生徒の手元にも注目させる。	班 一斉	20	(表言) 基本文をもとにいろいろな動詞を使って質問を作ることができる。 <相互評価・自己評価> (関) いきいきと積極的に発表・質問しようとしている。 <様相チェック・自己評価>	A: 4つ質問することができる。 B: 2つ質問することができる。 (期待する姿) ・意欲的に質問しようとしている。 ・大きな声で抑揚をつけ、目を見て、発表・質問しようとしている。	教科書巻末資料やワークシートの例文を示し、簡単な英文を作るよう助言する。
8 本時のまとめをする。 次時の予告を聞く。	⑧ ②③④	・自己評価表に記入させる。 ○グーグルアースでシアトルの説明をする。	一斉	5			